

学校図書館における電子書籍貸出サービスの現状と課題

西牟田 晴人

近年の教育の情報化、COVID-19の感染拡大などにより学校教育での電子資料の活用が求められている。「学習センター」、「情報センター」としての役割が期待される学校図書館も電子資料への対応が求められており、その手段の一つに電子書籍貸出サービスがある。電子書籍貸出サービスには資料の提供に時間、場所を問わないという利点があり、時間がないなどの理由で学校図書館を利用できていない高校生への提供が望まれる。しかし、学校図書館における電子書籍貸出サービスについてはほとんど明らかになっていない。

そこで、本研究では高等学校図書館における電子書籍貸出サービスの現状と課題を明らかにすることを目的として2つの調査を行った。

調査1では、関東の高等学校図書館70校を対象として質問紙調査を行い、学校図書館における電子書籍貸出サービスの導入状況や、導入が進まない背景について検討した。回答が得られた学校は47校であった(回収率67.1%)。分析の結果、47校中44校(93.6%)の高等学校では電子書籍貸出サービスを導入しておらず、47校中35校(74.4%)の高等学校では導入の検討さえされていない。未導入校では、電子書籍貸出サービスの導入の課題として、予算、ICT環境、利用のニーズ、担当者の問題があることが明らかになった。

調査2では、電子書籍貸出サービスを導入している高等学校図書館18校を対象として調査を行い、調査1で得られた導入の課題の解決方法を明らかにするとともに、導入校における電子書籍貸出サービスの活用状況を把握し、導入後の問題について検討した。回答が得られた学校は11校(回収率61.1%)であった。分析の結果、導入にかかる予算の問題については、既存の予算の一部を利用することで解決している場合があることが示された。導入校のICT環境については、生徒自身のデバイスを活用していたことから、今後新たに電子書籍貸出サービスを導入する場合にはBring Your Own Device(BYOD)が有効であると考えられる。また、導入校ではほとんどの学校で電子書籍の貸出数の増加が見られ、電子書籍貸出サービスが活用されていることが明らかになった。一方、導入後の問題として、特に問題となっているのは予算面の問題であり、費用が高いことと、電子書籍購入費の予算が支出項目として確立されていないことが明らかになった。

調査1、調査2の結果から、現状として学校図書館における電子書籍貸出サービスは検討さえ進んでおらず、導入前の課題としては予算、ICT環境、担当者の問題があることが示唆された。導入校において電子書籍貸出サービスが活用されている現状から、GIGAスクール構想の実現や予算の一部を利用することで導入前の課題を解決し、学校図書館へ電子書籍貸出サービスの導入を進めることが望まれる。今後は導入を進めると同時に、導入後の問題を抱える学校に本研究で示された解決方法を提案し、実践や評価を行っていく必要がある。

(指導教員 鈴木佳苗)